

塩味感度不良群に対する介入により 得られた結果と、自己管理への関与の調査



医療法人社団つばさ つばさクリニック
金子 直之 大山 恵子 横関 美枝子 大槻 美佳
磯山 悠 諸見里 仁 大山 博司 藤森 新

日本透析医学会学術集会・総会

COI 開示

筆頭発表者名：金子 直之

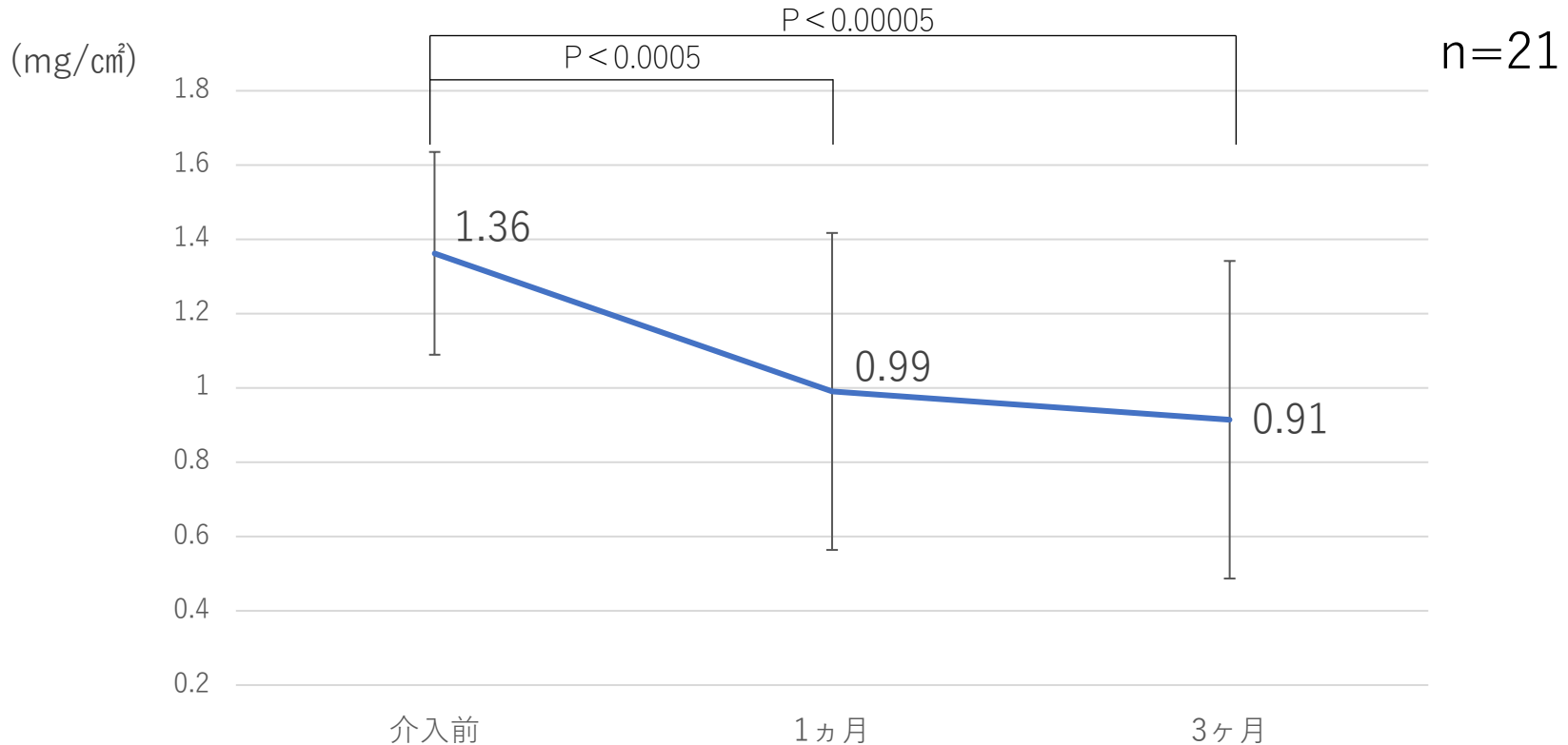
演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある企業などはありません。

【背景】

- 2021年2月に第11回運動療法研究会が開催され、『透析患者の塩味感度とオーラルフレイル～判定不良群に対し嚥下体操介入を行った結果～』を発表した。

3ヶ月間の介入によって塩味判定に有意な改善が得られたため、透析患者の自己管理（体重増加率・塩分摂取量）への影響があるか調査した。

【介入結果：塩味感度判定】



介入前平均1.36mg/cm²から介入後0.91mg/cm²と有意に改善が認められた

介入前後で塩味感度が21名中15名で改善した

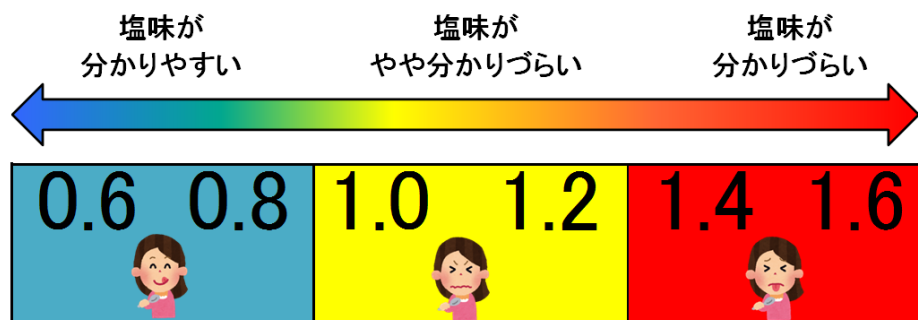
介入前と1か月後、介入前と介入後には有意に改善し、2か月目から3か月目では、有意な改善はなかったが、塩味感度は維持された

【目的】

透析患者の口腔は水分制限・除水などの要因や、加齢による「唾液分泌量の減少」が発生しやすく、口腔の健康が妨げられやすい環境である。

ソルセイブ®を用い当院の外来維持透析患者に塩味感度判定を行った。当院における分類表より3群に分け、『塩味がやや分かりづらい』『塩味が分かりづらい』の2群を感度不良群とし、嚥下体操の介入を行い塩味感度が改善できるか検証。体重増加率・塩分摂取量との関与を調査した。

【塩味の味覚検査結果】



* 当院における味覚検査分類表

【対象】

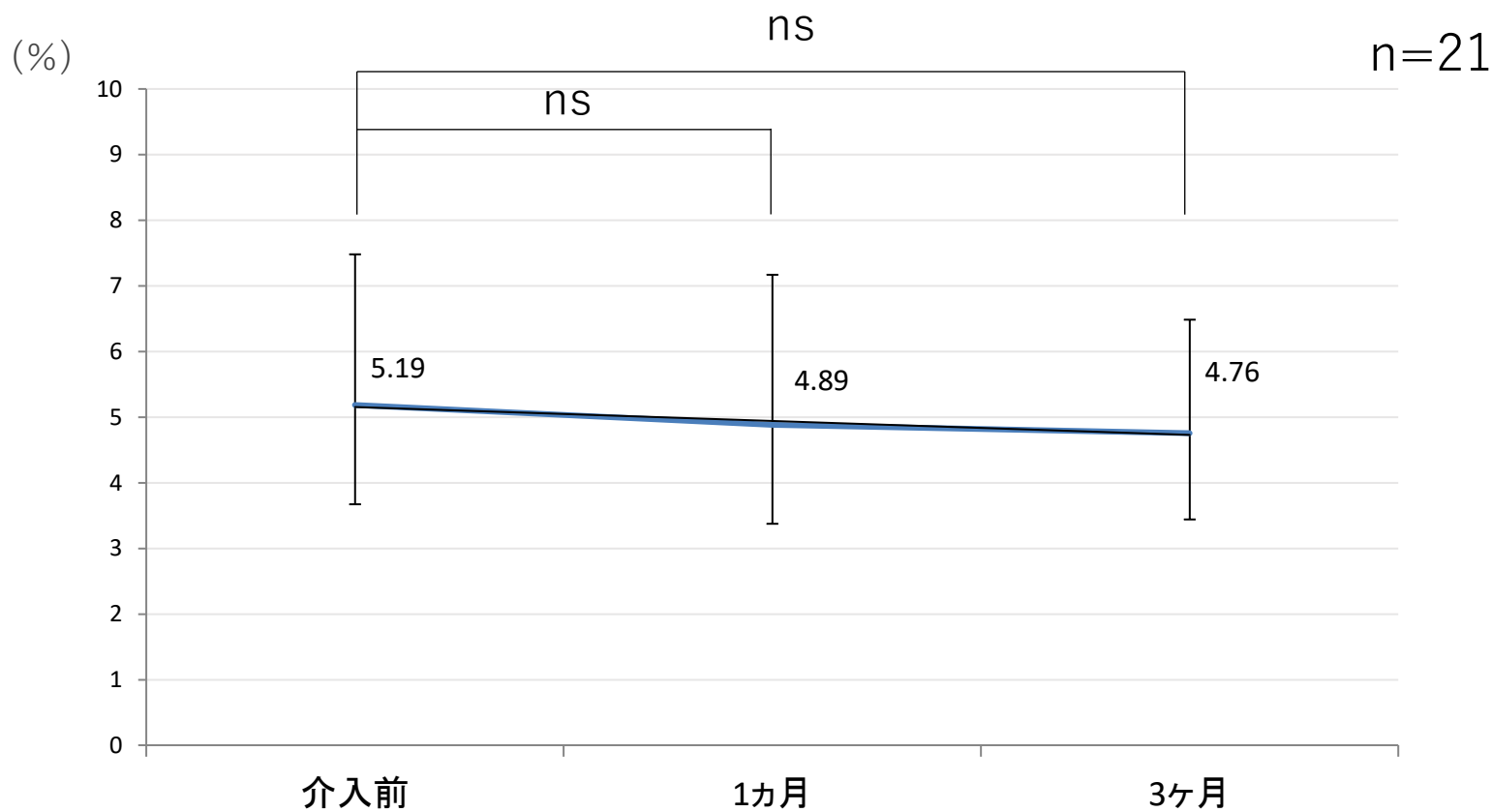
- 当院の外来維持透析患者128名に対し塩味感度判定を行い、判定不良だった42名。
その内介入の同意が得られた21名を対象とした。
- 男性：16名 女性：5名
- 糖尿病：11名（男性：11名 女性：0名）
- 平均年齢：70.8±12.1歳
- 平均透析歴：86.6±66.6ヶ月

【方法】

- 透析前にスタッフが付き添い、約10分間の口腔の運動（舌の運動・パタカラ運動）、唾液腺（耳下腺・顎下腺・舌下腺）マッサージをDVDで放映し3ヶ月間実施した
- ソルセイブ®(アドバンテック東洋株式会社) による0.6・0.8・1.0・1.2・1.4・1.6mg/cm²の6段階で行う塩味感度判定を介入前・1ヶ月後・3ヶ月後に行い、中2日の増加率、塩分摂取量と関与があるか調査した
- 塩分摂取量は木村の式を使用し、体重増加率は中2日の増加率の1か月平均を求め、比較をした

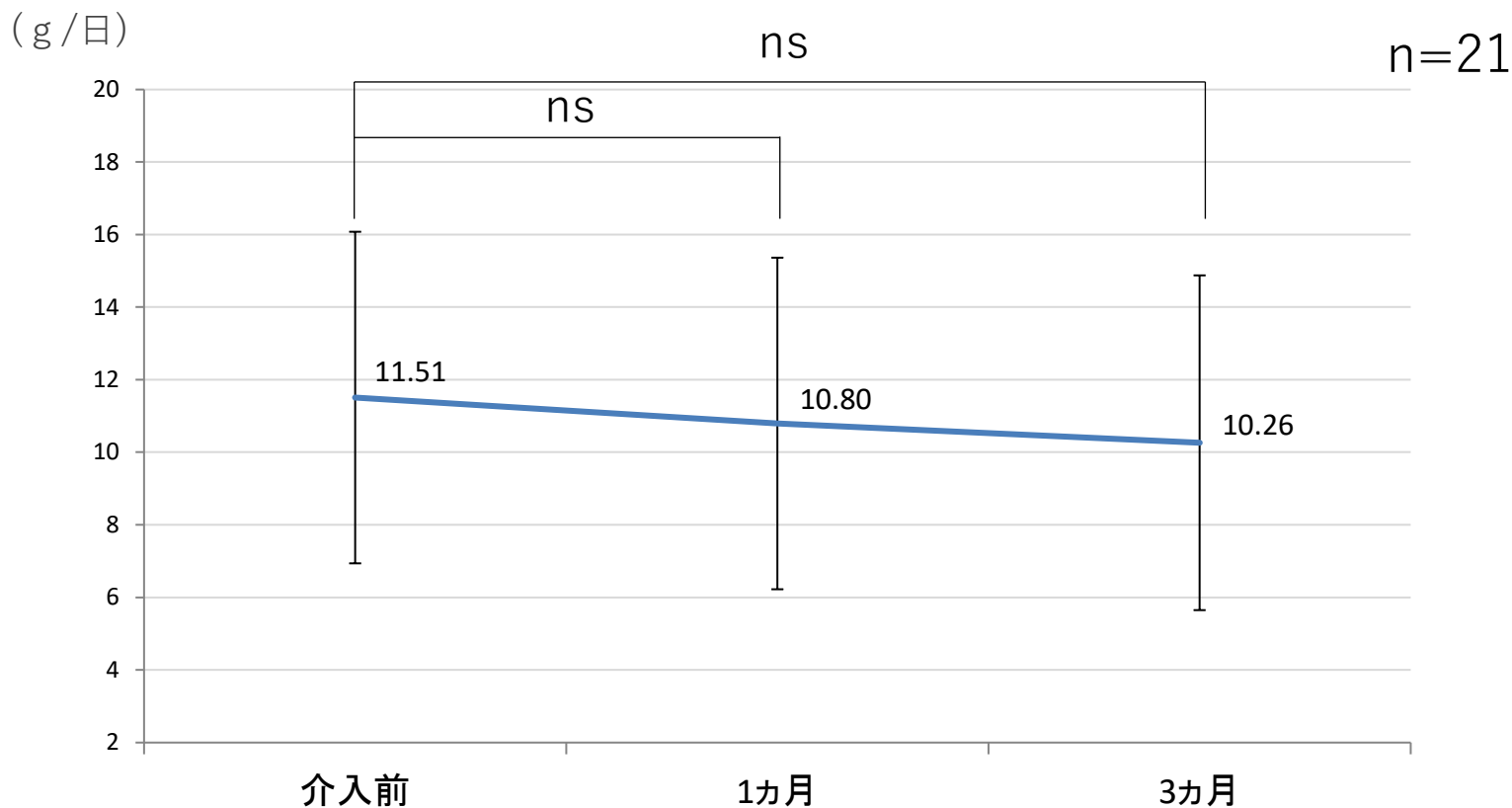


【結果：体重増加率】



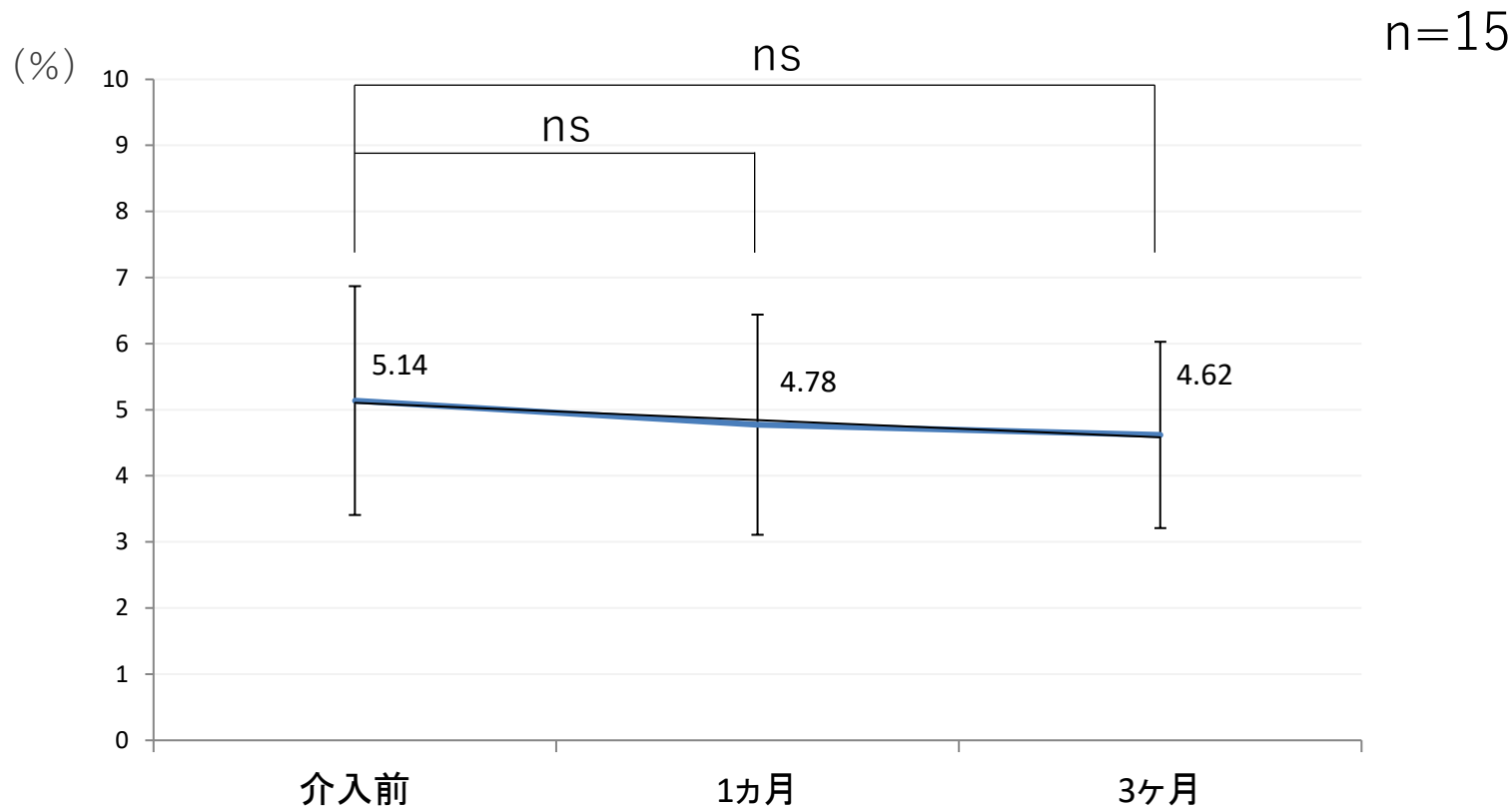
介入前と介入3か月後の間で低下はみられたが有意な変化はなかった

【結果：塩分摂取量】



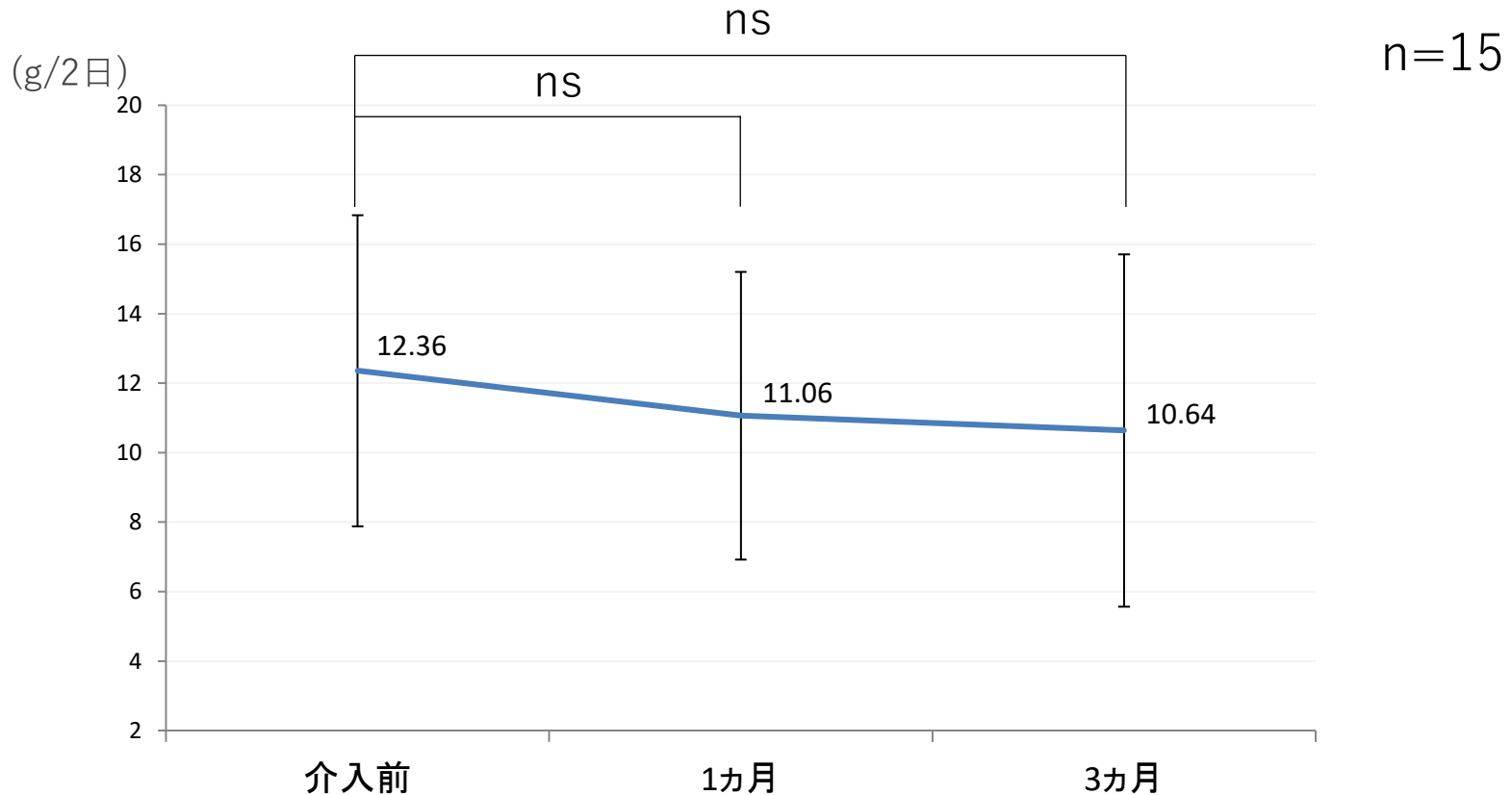
介入前と介入3か月後の間で低下はみられたが有意な変化はなかった

【結果-1：塩味判定改善群の体重増加率】



介入前後で塩味感度が改善した群でも体重増加率の有意な変化はなかった。

【結果-2：塩味判定改善群の塩分摂取量】



介入前後で塩味感度が改善した群でも塩分摂取量の有意な変化はなかった。

【考察・結語】

- 体重増加率・塩分摂取量の改善はみられるものの介入前・介入後での有意差はみられなかった。
- 塩味感度の改善と体重増加率、塩分摂取量の関連はみられなかった。
- 塩味感度の改善だけでは十分な自己管理への影響を及ぼすことができなかった。今回の結果を踏まえ、塩分摂取量改善へ向けた指導として、塩味だけでなく五味全体を考慮した指導方法(例：塩分を抑えダシなどのうま味で代用する、など)が有用ではないかと考えられた。